

チリ 生食用ブドウ輸出は新品種への変更で増加の予測

[The Grape Reporter 2024年10月23日](#)

チリの生食用ブドウ委員会は、前回の輸出シーズンと比較して輸出量が2.4%増加するとして2024-25年度シーズン最初の業界予測を発表した。輸出量は6,600万6,178箱と予想されている。

同委員会のイグナシオ・カバレロ事務局長は、この予測は業界の85%の協力を得て行われ、委員会は2シーズン連続で生食用ブドウの出荷量の増加を見込んでいますと述べ、「この成長は、チリのブドウ産業を高い品質と多様なブドウを有するものとしてあらためて位置付ける」と付け加えた。

この推計では、新品種の出荷が増加する傾向が国際市場で引き続き拡大し、2024-25年度シーズンの輸出量の65%、すなわち4,286万6,374箱を新品種が占めると予想している。

カバレロ氏は、「消費者はより風味がよく、しっかりした歯ごたえのある食感を求めているため、新品種の供給が増えることで、チリ産ブドウは輸出市場でますます魅力を高めることになる」と説明した。

システムアプローチ

米国は、引き続きチリの生食用ブドウ産業の主要な輸出市場であり、出荷量の60%近くが米国向けである。アジアが2位で16%を占め、次いでヨーロッパ(14%)、その他の市場(10%)となっている。

今シーズンは、チリ産生食用ブドウが初めてシステムアプローチのプロトコルの下で米国に出荷されるため、業界にとって非常に重要である。これにより、タラパカ、コキンボの両県及びバルパライソ県の一部から生食用ブドウを出荷する際に燻蒸する必要がなくなる。

カバレロ氏は、「システムアプローチのプロトコルがチリ産生食用ブドウの最も重要な市場で大きなチャンスを開き」ため、チリの生食用ブドウ業界はこの新しいシーズンについて非常に楽観的であると述べ、これにより出荷される果実の品質を向上させ、地域の生産者を支援することができると付け加えた。

同委員会は、生食用ブドウの消費をさらに増やすために、これに特化した販売促進キャンペーンを展開しており、また、メキシコでのシステムアプローチのパイロットプランが策定され、進行中であると付け加えた。

トルコ 果実輸出が2024年の最初の9カ月で10億ドルを突破

[FreshPlaza 2024年10月24日](#)

2024年の最初の9カ月で、トルコは10億米ドル相当を超える果実を114カ国に輸出することに成功し、世界の農産物市場におけるこのセクターの戦略的役割を際立たせている。世界的な経済の逆境や物流上の困難に直面しているにもかかわらず、トルコの果実輸出部門は一貫した成長を遂げており、柑橘類、リンゴ、ザクロ、サクランボ等がそれを主導している。国際市場におけるトルコの果実の魅力は、その高い品質、エコロジカルな生産基準の遵守、及び競争力のある価格設定によるものである。

輸出先地域を拡大する中、トルコの主要輸出市場は、欧州連合、中東、ロシア等であり、中国、韓国等のアジア諸国への輸出が大幅に増加するとともに、アフリカ諸国との積極的な関わりも見られる。トルコにとって果実輸出の経済的影響は重大であり、外貨収入の獲得と農業地帯での雇用の創出、さらに世界の青果物市場の主要プレーヤーとしてのトルコの立場の強化に貢献している。輸出の成功は、生産振興と品質向上を目的とした国の補助金と事業に支えられて、地域農業の発展、技術革新、及び世界的な競争力を強化する。

トルコは今後、最新の物流と農業関連技術を活用した戦略的な市場統合と新市場の開拓を通じて、果実の輸出量を拡大することを目指している。この成長路線は、品質、供給の柔軟性、及び国際協力に対するトルコのコミットメントを反映しており、トルコを世界的な生鮮果実の主要供給国に位置付けている。

出典: [akmu](#)